

令和3年第16回教育委員会定例会  
(8月20日開会)

台東区教育委員会

○日 時 令和3年8月20日（金）午後2時00分から午後3時00分

○場 所 台東区役所 10階 1002会議室

○出席者

教 育 長	矢下 薫
教育長職務代理者	末廣 照純
委 員	神田しげみ
委 員	高森 大乘
委 員	垣内恵美子

○出席者

事 務 局 次 長	梶 靖彦
庶 務 課 長	佐々木洋人
指 導 課 長	瀧田 健二

○日 程

日程第1 議案審議

第20号議案 令和4～6年度使用 台東区立中学校社会科歴史的分野教科用図書採  
択について

第21号議案 令和4年度使用 台東区立特別支援学級教科用図書採択について

・ その他

午後2時00分 開会

○矢下教育長 ただいまから、令和3年第16回台東区教育委員会定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、末廣委員にお願いいたします。

ここで、傍聴について申し上げます。

本日、会議の傍聴を希望する方については、許可することとしておりますので、ご了承ください。また、今定例会においては東京都台東区教育委員会傍聴規則第4条ただし書きの規定に基づき、傍聴人が20名を超える場合であっても、これを許可いたしたいと思っております。

また、本日の会議について、写真撮影を行いたい旨の申請がありました。つきましては、東京都台東区教育委員会傍聴規則第7条の規定により、許可いたしたいと思っております。

〈日程第1 議案審議〉

第20号議案

第21号議案

○矢下教育長 それでは日程第1、議案審議に入ります。第20号議案及び第21号議案を一括して議題といたします。

いずれも、8月3日に開催した定例会からの継続審議の案件となります。

本日は、8月3日の定例会において協議した審議方法に基づいて、教科用図書の採択を行ってまいります。

確認の意味で、私から審議方法について、再度説明をさせていただきます。はじめに中学校社会科歴史的分野教科用図書について審議し、次に特別支援学級教科用図書について審議をいたします。中学校社会科歴史的分野教科用図書については、推薦する教科用図書の発行者について、各委員から、理由を付して挙げていただきます。挙げていただく発行者については、一者しかない場合は一者、複数ある場合は三者までとし、優先順位を付けて挙げていただきます。

その際にご留意いただきたいのですが、今回の採択にあたりまして、討議を行うために、全ての教科用図書の発行者名をアルファベットに置き換えた状態で内容を確認し、検討をいたしました。したがって、意見交換の際も、推薦する発行者を挙げていただく際も、A者、B者というように、アルファベットでご発言くださるよう、お願いいたします。

次に、推薦を挙げていただく際の発言の順番ですが、議席順にご発言をいただく方法で進めたいと思っております。

また、特別支援学級教科用図書については、年度ごとの子供たちの障害の状況等を考慮して審議及び仮決定していきたいと思っております。

この進め方でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○矢下教育長 それでは、発行者の推薦方法及び発言の順番については、そのように進めさせていただきますと思います。

次に、仮決定についてですが、委員全員からご意見をいただいた後、委員会として採択する一者を仮決定してまいります。中学校社会科歴史的分野教科用図書についてですが、三人以上の方が第一位に推薦した発行者については、過半数を超えておりますので、それをもって仮決定といたします。ただし、過半数に満たない場合は、各委員から改めてご意見をいただくなど、協議をした上で仮決定してまいります。なお、仮決定するまでは、発行者名をアルファベットに置き換えた状態で審議いたしますが、仮決定した発行者名については、公表いたします。

次に、最終的な採択までの流れについて、説明をさせていただきます。中学校社会科歴史的分野教科用図書の仮決定が全て終了した後に、特別支援学級教科用図書についても審議し、仮決定をいたします。その後、委員会を休憩とし、休憩中に事務局が、仮決定した内容で、第 20 号議案及び第 21 号議案を用意いたします。準備ができ次第、委員会を再開し、作成した議案により、採択の議決を行いたいと考えております。

これにご異議ございませんか。

(異議なし)

○矢下教育長 ご異議ございませんので、本日は、このような審議方法で進めてまいります。

それでは、早速審議に入りたいと思います。まず、第 20 号議案について、ご審議願います。なお、発行者は 8 者となっております。

まず、各委員から採択すべき発行者について、順位を付けてご発言願います。

それでは、議席番号 1 番の垣内委員から順にお願いします。

○垣内委員 ありがとうございます。

中学校社会科歴史的分野では、社会的事象の歴史的な見方・考え方に立って、広い視野を持って、グローバル化する社会に主体的に生きる。そういう主体性を育むという意味で非常に重要なものであると思っております。

そのためには、特に世界の歴史を背景に日本の歴史の各時代の特徴を踏まえて理解することだけではなく、様々な資料から歴史に関する情報を効果的に調べてまとめる、そういった課題解決型の技能を身につけることが一つの大きな目的になるかと思っております。また、それぞれの事象の意味・意義・特色といったものを時代や年代の比較、相互の関連、現代とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察するといった能力も求められているというふうに理解いたしました。

その上で、各者教科書を拝見いたしました。いずれの教科書も、教科書の使い方、学習課題、本文の振り返り、学習のまとめといったような内容の構成や、單元ごとに振り返りが用意されているなど、学習を深めるための様々なコラムなどの資料をしっかりと吟味して用意されているという点では、いずれもよくできていると思われました。

ただ、その中で、歴史的な事象の構造的な理解とともに、課題解決型のスキルを身につけ、社会的課題は何かを十分理解し、それに対する解決策を考えていくという、非常に主体的で深い学びに効果的に寄り添うという観点から、私は、第1位をG者、第2位がF者を推薦したいと思います。

理由ですが、G者は、教科書の使い方については約2ページにわたる丁寧な記述があります。また、学習課題、本文振り返り、学習まとめについても多くのページ数を割いて、丁寧に構成しています。これによって、効果的に、学ぶ側の主体的な学習を促すことができるものだろうと考えております。また単元の最初に、その単元での探究課題、何を考えるのかというようなことに対するヒントがあり、そしてまた、課題解決のための探求のステップといったようなことを明確にしています。ウェブリンクとかマトリックスなどを使いながら、構造的に社会的な事象を理解しようとする姿勢が育まれるのではないかというふうに思いました。また、単元の終わりでは、学習を振り返ろうということで、基礎・基本のまとめ、まとめの活動というものも設定しており、大変高く評価できると思います。

二つ目に、学びを補完するためのコラムですが、これをたくさん用意しています。例えば、課題の追究を深めるためのコラムとして、「みんなでチャレンジ」あるいは「スキルアップ」を準備しています。そしてまた、本文を深めるコラムとして、「もっと歴史」とか「地域の歴史を調べよう」といった、多様で多角的なアプローチの糸口を用意することによって、たくさんの資料の中から、学習者の興味関心に沿って学習が組み立てられやすいのではないだろうかと思いました。やや分量は多いものの、選択肢が広がるということの評価させていただいております。

また、仕様上の便宜としては、ほかの教科書もほぼ同じですけれども、見開き2ページで、学習課題、本文学習、コラム、チェックイン・アンド・トライといったような形で掲載されており、1時間の授業で十分に学習できる、過不足なく学習できるかなというふうに思いました。

他の教科書でも、いろいろなデータもご用意されていますけれども、以上の点を持って、G者が一番丁寧で、小学校の勉強の流れも踏まえて中学校での課題解決型の深い学びに入っていく、そういった意味で、大変工夫がなされているというふうに思いましたので、G者を第1位といたしました。

第2位のF者、こちらも非常に優れた教科書で、調べ方・まとめ方、そして発表の仕方というところまで工夫を凝らしており、対話的な学びを促すコラムも充実しています。また、二次元コードによるデジタル資料も用意されておりますが、丁寧さと構造的な学びという観点からG者のほうが読みやすく、優れているのかなというふうに思いました。以上です。

○矢下教育長 ありがとうございます。

続いて、高森委員、お願いいたします。

○高森委員 科目名、社会科、種目、歴史につきまして、私は主に5つの点で比較・検討

いたしました。すなわち、教科書の導入部分において歴史を学ぶ意義や学習の方法が分かりやすく示されているか。課題を追求し学びを深める活動が充実しているか。資料を分析する能力を育むコンテンツが用意されているか。資料の見せ方に工夫があるか。デジタル教材の使い勝手はどうか、などの視点で比較いたしまして、私は1位にF者、2位G者を選びたいと思います。

社会科に限らず、全ての教科に共通する視点として欠かすことができないのが、教科用図書の導入部分に、当該教科を学習する意義がきちんと示されているかどうかという点です。その教科をなぜ学ぶのかという理由がしっかりと位置づけられていることが、その教科用図書を編集した発行者の姿勢を表す重要な部分であると思っております。

そのような視点から各者を比較いたしますと、F者は導入部分の第1部「歴史のとらえ方と調べ方」において、2ページ目に歴史とは過去との対話であることに触れ、12ページには「さまざまな立場や多様性を踏まえた未来のために」と題して、多様な歴史的事象の前後関係や因果関係を把握することの意味、人類の先人たちの成功・失敗・努力・犠牲に対して敬意を表し、歴史の舞台に立って、人々が置かれたさまざまな状況や多様な願いを理解するというエンパシーの大切さ、歴史的な判断力を身につけることの意味、過去に問いかね未来を考える合目的的手法としての歴史探究の必要性、未来のために歴史を学ぶという態度の重要性などが説明されており、そのための具体的な手段として、情報の集め方、資料の扱い方、レポートのまとめ方や発表の仕方などが詳しく解説されております。

特に、F者で特筆すべき点は、10ページ下段の「技能をみがく」のコラム欄「レポートのまとめ方、発表のしかた」です。ここでは、人文社会科学系の学術研究の基礎となる科学的アプローチ、すなわち対象を観察し、考察し、考察した結果を表現するというプロセスに基づいて研究を進めることの意味、またそのプロセスが恣意的・独善的にならないよう、他者も理解・合意できる論理整合性、事実立脚性、主観的客観性をもって実証的に考察することの大切さが、中学生にも分かりやすい表現で説明されている点が優れています。

歴史を学ぶ意義については、他者でも例えばA者の7ページ、E者のローマ数字のIVページ、G者の1ページ、H者の2ページと8ページには、F者同様に充実した説明がなされております。

一方、私が2位に選んだG者は学習の方法については確かに充実しておりますけれども、歴史を学ぶ意義については1ページ目に簡潔に説明されるにとどまります。

次に、対話的な学びにつながる活動が充実しているのは、F者です。「未来に向けて」と題した43点のコラムを用意し、環境・交流・人権・平和など、今日的課題を歴史に学んで解決するという態度を、教室で学べる工夫がなされています。一方G者は、「みんなでチャレンジ」のコーナーを設け、同様の活動を想定していますが、テーマ別の設定はありません。資料の分析能力を育むコンテンツについては、F者・G者それぞれによいところがあります。

F者では、要所要所に学習の見通しを立てる「タイムトラベル」のイラストが配置され、

イラストを眺めて前の時代との比較を行い、描かれた人物や事物から気づいた事柄や疑問点を発見して、時代全体のイメージをつかむ工夫がなされています。イラストは、絵巻物や屏風絵のようなオリジナルの画像ではなく、発行者の意図を踏まえて作画されたものになっているため、かすれだとか虫食いだとかがないため見やすいばかりでなく、見通しを立てるために必要な情報が意図的にちりばめられている点も評価できるのではないのでしょうか。図版の周囲に方眼格子線のグリッドを設定して、目標の図を探し当て安い工夫もなされています。さらに、F 者では、「技能をみがく」のコラム欄において、37 ページには「系図の見方」、52 ページには「絵巻物の見方」、249 ページには「新聞の意図を読み解く」などなど、他者には見られない特徴的な題材が多くあり、このほかにも各章各節に掲載された写真・資料の多くにキャラクターの吹き出しで問いを設け、資料から情報を読み取る活動を取り入れております。ほかにも、教科書の随所に「集める」「読み取る」「まとめる」のアイコンを駆使して、歴史を学ぶ上で必須となる基礎的・基本的な技能を繰り返し学習する場面が設定されています。

一方、G 者では、「資料から発見!」の特設ページにおいて、時代を代表する絵巻物・屏風絵・浮世絵・錦絵などを通して、そこに描かれた情報を読み取るスキルの重点的学習を用意しております。コンセプトとしては大変興味深いのですが、元の画像がオリジナルの原画を用いているために、古い時代の資料は、かすれや虫損等があると見づらく、また発行者の意図した通りの情報を読み取り切れないのではないかという難しさもあります。研究者であれば、こちらの方を扱うのが正しいのですが、義務教育段階の学習者にはレベルが少し高く不向きではないかと思いました。

まとめの活動について比較しますと、G 者は「多面的・多角的に考えてみよう」ならびに「章の学習を振り返ろう」において、F 者は「基礎・基本のまとめ」ならびに「まとめの活動」において、書き込み式のページをそれぞれ設けておりますが、このうち F 者は、構造的・視覚的に知識や情報を整理・把握するためのチャート、マトリックス、ストラクチャ、ウェビングなどのシンキングツールを活用した「まとめの活動」が優れています。

デジタル教材については、F 者は発行者独自のコンテンツと NHK 作成の外部コンテンツで構成され、それぞれのサイトのレイアウトが統一されており、内容も充実しております。使い勝手がよいと感じました。一方、G 者は、デジタル教材にアクセスするためには、都度、5 ページ目の 2 次元コードを開かないといけません。内容は、他の教科や分野への接続、穴埋め形式のシミュレーションやクイズ形式の練習問題といった独自の教材が用意されているなど工夫が見られますが、様々な外部コンテンツへアクセスする項目が多いのは、リンク先のフォーマットが多種多様であるため、使い勝手はいかがなものかなと思いました。

以上の検討を踏まえまして、私は 1 位に F 者を選び、2 位に G 者を選びました。以上です。

○矢下教育長 ありがとうございます。

続いて、神田委員、お願いします。

○神田委員 私は、歴史の教科書を選定する観点として、次の四つの視点で比較をしました。一つ目が、学習のねらいが明確であるか。二つ目が、主体的・対話的で深い学びにつながる内容か。三つ目が、知識、技能の習得が可能か。四つ目が、客観的事実を基に、分かりやすい説明がなされているかなどです。

冒頭で示されている教科書の使い方や学び方、それから導入、課題、本文、コラムなどの資料の充実している教科書が多く、どれも様々な工夫がなされていると思いました。歴史は、その捉え方というのが色々あると思うのですが、公教育で指導する際には、客観的な資料を多く掲載し、学習者がその資料を基に多面的な思考ができるということが大切かと私は考えます。

このような観点から考えまして、私は、第1位はG者、2位にF者を推したいと思います。G者ですけれども、冒頭に教科書の使い方が丁寧に示されており、このことにより、主体的に学習することができ、また、自学自習も可能となります。また、歴史を捉える見方・考え方が2ページ使って説明しており、歴史を学ぶ上で大切な考え方も示されています。

この教科書は見開き2ページを1時間で学習するような構成になっております。毎時間の学習課題が示され、本文の説明が分かりやすい、そして、文字の大きさや色彩もよく見やすいと思います。また、資料も多くて、その資料を基に様々な視点から考えを深めることも可能であるかと思えます。また、G者は、主体的・対話的で深い学びの実現のための、探求学習に向けた工夫が多くなされていると思います。例えば、章のはじめに「みんなでチャレンジ」があり、対話的な学びを促しています。また、テーマを決めて、調査・考察しよう、まとめと発表をしよう、テーマ探究的な学習のやり方が4ページにわたって掲載されております。G者のコラムは、課題を追究するコラム、チャレンジをするためのコラム、スキルアップするためのコラムなど、意図を明確にして掲載されております。基礎的、基本的事項の定着についてですけれども、導入と振り返りが意識された構成になっております。各ページに「チェック」「トライ」が設けられ、「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認し、「トライ」で発展的な学習ができるようにも工夫されております。章ごとに課題型のまとめとテストも用意されております。技能的な面でも、各学習過程でスキルアップが図れるのではないかと思います。

SDGs に関しても、巻頭の2ページで扱っており、歴史学習との結びつきを意識されています。また、Dマークや二次元コードから、専用のWEBページを閲覧でき、情報を得ることもできます。ほかに、地域性として、東京に関する歴史を多く取り上げられておりました。東京大空襲では台東区の歴史も掲載されております。一方、F者ですけれども、小学校で学ぶ事項、地理や公民で学ぶ事項がページの下に掲載されておりました。発達段階や小中との連携を意識したことは大変すばらしいと思います。また、章や節の最後に、知識技能と歴史的な見方・考え方の振り返りを丁寧に扱っているというところも、学習の成

果をまとめる上では役立つところかと思っております。また、対話的な学びを促すコラム、深い学びを促すコラムも充実していて、使いやすいのではないかと思います。

これらを比較して、結果としては第1位はG者、2位にF者を推薦したいと思えます。以上です。

○矢下教育長 ありがとうございます。

続いて、末廣委員、お願いいたします。

○末廣委員 学習指導要領における歴史的分野の目標の要点をまとめますと、まず、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解する。また、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養う。そして、このような学びを通して、我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や、人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する心と、国際協調の精神を養うことなどを目標としているとすることができます。これらの目標に各者がどのように対応しているかを総合的に判断して、私は、第1をG者、そして、第2位はH者を推したいと思えます。

G者に関しては、昨年G者を推した私以外の教育委員のご意見も併せて申し上げます。G者は、まず、日本の国宝、重要文化財を取り上げ、日本には歴史的、芸術的・学術的に価値のある文化財が数多くあることを述べ、この最初の見開きが歴史に誘うページになっています。

更に続くページは、「持続可能な社会の実現に向けて歴史に学ぶ」があり、まず、なぜ「歴史を学ぶのでしょうか」という根本的な問いが提起され、その答えには、「私たちの未来を考えるために歴史が必要とされるからです」とあり、現実には、「私たちが生きる現代の社会は、AIなどの科学技術の一層の発展により、社会が急速に変化しており、また、環境資源・防災・貧困・平和などに関する多くの課題に直面しており、それらの現代の問題を解決するために、歴史が役に立つ」としています。

その理由として、「歴史は人々が過去にどのようにして課題を克服しようとしたのかを教えてくれるからです」とありまして、歴史を学ぶ意味を明確に提示しています。

続いて、「この教科書の使い方と学び方」では、全体の構成と教科書全体の流れを簡潔に説明し、そして各章とも、まず章の学習を貫く「探求課題」を立て、続いて、本文ページでは、節ごとの課題である「探求のステップ」や項ごとの「学習課題」を踏まえて、学習を進め、続いて、基礎・基本のまとめとして、「探求課題」の解決に取り組み、そして、まとめの活動として、その時代を大観して、時代の特色を掴み、章の学習をまとめるという構成になっています。また、「第1章歴史へのとびら」の「第1節歴史をとらえる見方・考え方」では、小学校で学んだ人物・文化財・出来事が全て示されており、これを時系列に整理し、なおかつ年表にまとめてみる作業がコラムで課せられており、小学校で学んだ事項は親しみやすいであろうし、なお、自分自身が時代別・項目別に年表を作成する

ことは出来事がどのように推移してきたかを捉えることができ、歴史を学習する上で非常に有意義になると考えます。

課題の追及を深める目的別コラムも充実しており、グループで取り組む対話的な活動のコーナーである「みんなでチャレンジ」、基礎的・基本的な技能を身に付けるコーナーの「スキルアップ」、歴史的な見方・考え方を活用するコーナー「見方・考え方」、学習内容を詳しく説明したり関連する内容を取り上げるコーナー「歴史にアクセス」など、多角的なアプローチの糸口を示し、また、ICT を活用した学習の用意もあります。このように G 者は、課題を主体的に、かつ、多面的に追及・考察する姿勢を明確に意識した教科書の構成・展開となっております。それゆえに、私は第 1 位に G 者を推します。

続いて、第 2 位の H 者ですが、表紙の裏ページで、まず日本の文化遺産を上げ、また、旧国名、都道府県名の地図が示されております。その後の「歴史を学ぶとは」では、「過去に起こったことに関し、同時代の人々がどう考え、どう悩み、どのように解決していったのかを知ることであり、また、それぞれの時代に私たちの共通のご先祖が直面した問題を知り、私たちもその問題を自分のこととして想像してみる事です。そうすると、歴史上の事実を単に覚えるだけではなくて、その背後のある人々の願いや苦しみが分かってくるでしょう」とあります。さらに、序章の第 1 節の「歴史とは何か」では、「今の基準で過去を批判することが歴史を学ぶ目的ではありません。今とは異なる時代背景と価値観の下で、それぞれの時代にはその時代の特有の善悪があり、特有の幸福があったのです」とあり、歴史を学ぶ上で私たちの最も重要で基本的なあるべき姿勢を示しています。序章「歴史のとらえ方」の第 1 節では、「歴史と物語と史料」のそれぞれの定義をし、第 2 節では「年代の表し方と時代区分」、第 3 節は「地域の歴史を調べる」があり、第 4 節には、「人物を通して時代を捉える」としてまず、人物カードを作る。そしてカードの作り方、その上で、800 字で人物伝記を書いてみようとなります。コラムに「人物クローズアップ」を設定していることも合わせて、H 者の歴史上の人物を重要視する視点が明確に認められます。

続きまして、第 1 章から第 6 章の各章の初めには、章の予告として、小学校で学んだ人物を中心に、「登場人物紹介コーナー」があり、生徒たちにとって親しみやすい導入となっております。本文の中の「歴史の言葉」というコラムでは、その節の重要な言葉の説明があり、また、コラムとしては、「もっと知りたいが」全 21 か所、「外の目から見た日本」3 か所、「人物クローズアップ」10 か所などで、各コラムとも、1 ページから 2 ページのページ数を使い、各時代の重要な事項・人物などをテーマとしてとり上げ、テーマに沿って読み物風に展開し、また各テーマに関する情報資料などを紹介しています。各章の末には、調べ学習のページ、続いて、復習問題のページ、これは重要な事項に関する地図問題があります。また、時代の特徴を考えるページでは、時代の特徴を捉えるために、その章の歴史用語ミニ辞典を作成するとあり、最後に対話とまとめ図のページとなっております。章末に調べ学習、復習、まとめ図などによって、学習の振り返りを丁寧に行いま

す。

以上、全体的に見ますと、H 者は、それぞれの事象の意味を各時代の特徴を踏まえて理解し、その時代の課題を主体的に捉え、解決のための学びを進めるという姿勢が明確に認められるということで、私は、第 2 位に H 者を推します。以上です。

○矢下教育長 ありがとうございます。

続いて、私でございます。

今回の教科書の採択に当たっての調査研究委員会の報告ですとか、教科書展示会のアンケートも拝見した上で、教科用図書のおすすめをさせていただきたいと思います。はじめに、昨年の作業の最後に申し上げましたが、各者の教科書を見ていく上での考え方を述べさせていただきます。今回の改訂では、教科書は学習指導要領にある、主体的・対話的で深い学びが十分に反映されているというふうに考えています。その考え方を実現する、あるいは支援するための工夫、役割といったことを主として見えています。

その点の主として見たこと・要点を、例えば、上げさせていただきます。1 点目は、教科書においてその教科書の全体構成・進め方、学習への取り組み方が分かりやすいか。その点が教科書の内容においてしっかり示されているかといったことです。2 点目には、教科書を通して、特定の学習のしかた、学び方を身に着けることができるか、学習の仕方や進め方を生徒が獲得することで、主体的・対話的で深い学びをより進めていくことができるかというもの。3 点目にはどのように正しい情報を得るのか、活用するのかといったことです。4 点目には、歴史なので、歴史的な見方・考え方を通して、現代の社会問題の解決にどのように生かしていくのかということを生徒が理解していくことが大切であるということです。

今申し上げたような点を、教科書がそのように対応しているのか、そうしたことを生徒に理解させるために、どのようなことに力を入れているのかといったことを見てきました。そうしたことから、1 位に G 者、2 位に F 者を推薦いたしたいと思います。

G 者は、表紙の裏で日本の国宝・重要文化財の紹介をして、日本の歴史的・技術的・学問的に価値のある文化財があることを述べています。なるほどこういうものもあるのかということが概観できるようになっていて、歴史にいぎなうページとなっております。歴史へのいぎない、関心を持たせて、次の段階へ進みやすくしていると感じます。

続くページの持続可能な社会の実現に向けて歴史に学ぶでは、現在の社会の直面するたくさん課題に、歴史を学ぶことが役立つことが述べられています。このことで、「歴史は、人々が過去にどのようにして課題を克服しようとしたのかを教えてくれるからです」と、歴史学習の意義を明らかにしています。

続く、この教科書の使い方と学び方では、教科書全体の構成と、そのほか構成の説明として、教科書全体の流れを簡潔に説明しています。この流れを持って教科書本文に進んでいきます。第 1 章は「歴史へのとびら」となっています。この章では、歴史的な見方や考え方、歴史の捉え方、自分の住んでいる地域を課題に、テーマを設定し、調査し、考察を

してまとめを発表するという内容が丁寧に、かつ具体的に書かれていて、分かりやすくなっています。第2章以降、本文を通じて行われる課題解決学習を進めていくことを第1章まででしっかり支えていく、そうした期待が持てた教科書であることを評価しています。

次に推薦をしたF者ですが、表紙裏の見開きで、日本各地の伝統行事と祭りを紹介していて、これらが歴史的な関心を高める工夫となっているというように感じます。この教科書の学習の仕方では、学習の見通し、振り返りの流れ、本文ページの学習の仕方や、コラムによるその他のページが主体的・対話的で深い学びとどのようにつながっているのか分かるように簡潔に示されています。第1部は、「歴史のとらえ方と調べ方」で、その内容は歴史の流れと時代区分と、歴史の調べ方・まとめ方・発表の仕方になっています。キャラクターや漫画を使って、親しみやすく、内容も充実しています。特に地域の歴史を調べ、発表する内容は、少々詳細すぎるかとも思えますが実際にこのような調べ学習を生徒が行っていくときには、資料の作り方など、非常に参考になるのではないのでしょうか。さらに、課題解決学習を生徒が具体的に理解できるという点で、いい教材であると考えました。

以上のことから、1位をG者、2位をF者とさせていただきます。

ただいま、各委員から推薦する発行者についてご発言をいただきありがとうございました。集計した結果を、事務局からお願いします。

(集計)

○矢下教育長 ただいまの集計結果につきましては、1位にG者を挙げられた方が4名、F者を挙げられた方が1名、2位にF者を挙げられた方が3名、G者を挙げられ方、H者を挙げられた方がそれぞれ1名となっております。

結果として、1位にG者を挙げた方が4名と最も多く過半数を超えております。このことにより、G者に仮決定させていただきたいと思いますが、このことについて附帯意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(なし)

○矢下教育長 それでは、G者に仮決定させていただきたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

よろしいでしょうか。

(異議なし)

○矢下教育長 ご異議ございませんので、G者に仮決定いたしました。

それでは、G者の発行者名について、指導課長、お願いします。

○指導課長 それでは、仮決定のG者についてでございます。

発行者名は、東京書籍。書名は、「新しい社会 歴史」。

以上でございます。

○矢下教育長 それでは、中学校社会科歴史的分野教科用図書の仮決定した発行者の確

認及び、審議を行った全ての発行者の公表について、指導課長お願いします。

○指導課長 それでは、中学校社会科歴史的分野教科用図書につきまして、仮決定した発行者名並びに書名を改めて確認させていただきますとともに、審議を行った全てのアルファベットにつきまして、発行者名のみ公表いたします。

種目、歴史。仮決定はG者、発行者名は東京書籍、書名は「新しい社会 歴史」でございます。その他の発行者ですが、A者 育鵬社、B者 日本文教出版、C者 山川出版社、D者 教育出版、E者 学び舎、F者 帝国書院、H者 自由社。

確認及び公表は以上でございます。

○矢下教育長 それでは、以上のとおり仮決定の確認をいたしました。

次に、第21号議案について、ご審議願います。

指導課長より、説明をお願いいたします。

○指導課長 令和4年度使用台東区立特別支援学級教科用図書の採択について、ご説明申し上げます。

固定制の特別支援学級におきましては、年度ごとの子供たちの障害の状況や学年の人数構成などに対応するため、教科用図書採択を毎年度行っております。固定制の特別支援学級では、本区が採択した教科書のほか、特別支援学校用文部科学省著作教科書、さらに学校教育法附則第9条により、検定教科書、文部科学省著作教科書以外の一般図書を教科用図書として使用することもできます。

本区におきましては、蔵前小学校、松葉小学校、金竜小学校、柏葉中学校の4校に、いずれも知的障害の特別支援学級を設置しております。来年度より、浅草中学校にも、特別支援学級を設置する予定となっております。

教科用図書の選定に当たっては、各特別支援学級の教育目標に基づくとともに、どの教科書が児童生徒一人一人により適しているかということを考え、調査研究を行い、調査結果をご報告いただきました。

こちらにつきましては、一覧にしたものを、教育委員の皆様にご送付させていただいたところ です。

教科用図書の選定結果についてでございますが、蔵前小学校・松葉小学校・金竜小学校では本区で採択している検定教科書を使用いたします。柏葉中学校におきましては、検定教科書に加え、一般図書18件について、採択のご審議をいただきたく存じます。来年度より新設予定の浅草中学校につきましては、柏葉中学校と同様の検定教科書及び一般図書を使用いたします。

教科用図書の見本として、一般図書の一部を机上に置かせていただきましたので、ご覧ください。

報告は以上でございます。

○矢下教育長 特別支援学級の教科用図書について、ご質問、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

○高森委員 中学校に関しては、来年度から浅草中学校の支援学級が開設されるということですが、本区採用の検定教科書及びこの一覧表にのっている一般図書については、柏葉中学校と同じものが選定されております。これは生徒の実態に合わせて選定されているものなのでしょうか。

○指導課長 おっしゃるとおりですが、やはり入学する生徒の実態・状況がまだ分からないという中で採択をするのは難しいということなので、次年度に関しては、柏葉中と同じものをということで。令和5年度からは、その子供の実態に合わせて設定させていただくということにさせていただきたいと思います。

○高森委員 分かりました。選定しないでスタートを切るわけにはいかないのですが、取りあえずは同じものということで理解いたしました。

○矢下教育長 そのほかはよろしいですか。

よろしいでしょうか。

(なし)

○矢下教育長 それでは、特別支援学級の教科用図書について、説明のとおり仮決定することについて、ご異議ございませんか。

よろしいでしょうか。

(異議なし)

○矢下教育長 それでは、以上のとおり、仮決定をいたしました。

ただいま審議及び仮決定した内容をもとに事務局が議案を用意いたしますので、ここで準備が整うまで休憩といたします。おおむね10分程度と思われませんが、遅れることもありますので、ご了承ください。

それでは、これより休憩といたします。

(休憩     時     分～     時     分)

○矢下教育長 これより会議を再開いたします。

まず、第20号議案を議題といたします。お手元に、審議した内容に基づき、用意した議案がございます。

指導課長、説明をお願いします

○指導課長 第20号議案、令和4～6年度使用台東区立中学校社会科歴史的分野教科用図書採択について、ご説明申し上げます。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき提出するものです。

恐れ入りますが、裏面をご覧ください。

先ほど仮決定の際に確認させていただきました発行者、教科用図書等について、表にまとめたところでございます。よろしくご審議の上、採択いただきますようお願いいたします。

○矢下教育長 第20号議案は、先ほどの審議による仮決定のとおりとなっております。  
本件についてご審議願います。ご意見等がございましたらお願いいたします。  
よろしいですか。

(なし)

○矢下教育長 これより採択いたします。第20号議案については、原案どおり決定いたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。  
よろしいでしょうか。

(異議なし)

○矢下教育長 ご異議ございませんので、原案どおり決定いたしました。  
次に、第21号議案を議題といたします。  
指導課長、説明をお願いします

○指導課長 第21号議案、令和4年度使用台東区立特別支援学級教科用図書採択について、ご説明申し上げます。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき提出するものです。

恐れ入りますが、2枚目の別表をご覧ください。

蔵前小学校・松葉小学校・金竜小学校は、本区採択の検定教科書に仮決定されました。柏葉中学校・浅草中学校につきましては、検定教科書及び表にごございます一般図書について仮決定されました。

よろしくご審議の上、採択いただきますようお願いいたします。

○矢下教育長 第21号議案は、先ほどの審議による仮決定のとおりとなっております。本件についてご審議願います。ご意見等がございましたらお願いいたします。  
よろしいでしょうか。

(なし)

○矢下教育長 これより採決いたします。第21号議案については、原案どおり決定いたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。  
よろしいでしょうか。

(異議なし)

○矢下教育長 ご異議ございませんので、原案どおり決定いたしました。  
以上で、教科用図書採択についての議案の審議は全て終了いたしました。

・ その他

○矢下教育長 その他、何かございますでしょうか。  
よろしいでしょうか。

(なし)

○矢下教育長 以上をもって、本日予定された議事日程は全て終了いたしました。

これもちまして、本日の定例会を閉じ、散会いたします。

午後3時00分 閉会